

1. 評価報告概要表

作成日 平成 19年 10月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	4074200140		
法人名	株式会社 西日本介護サービス		
事業所名	グループホーム ウイズライフ新宮		
所在地 (電話番号)	福岡県糟屋郡新宮町下府1丁目4-12 (電話)092-941-5710		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成19年10月10日	評価確定日	平成19年10月29日

【情報提供票より】(19年8月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	2005年7月11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人 非常勤 0名 常勤換算 15.3名	

(2)建物概要

建物形態	単独型	新築
建物構造	鉄骨	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	165,000 無	有りの場合 償却の有無	3年	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	17名	男性	6名	女性	11名
要介護1	8名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	76歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	竹村医院 輝栄会病院 福岡和白病院 前田歯科クリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商店や住宅が建ち並ぶ一画に位置するホームは、地域との連携を図り関係を深める為ホームができることを地域にアピールしてきた。その結果地元住民もホームの存在を理解し現在は地域と密接な関係となっている。地域からの要望で緊急時の避難場所としてホームを提供することや災害時の近隣の協力体制も整っている。また、職員の研修、情報交換の場も確保され日々スキルアップの為に取り組みも見られる。その中で暮らす利用者一人ひとりの表情は豊かであり、住み慣れた地域で暮らすことの安心感が表出されている。そのことに職員も気持ちよい良い支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点は感染症に対する対応であったが、マニュアルを元に研修を重ねている。感染症対策としてホーム内の随所に手指消毒ができるよう消毒剤が設置され、トイレ内にも感染に対する注意書きが貼るなど改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点および今回の自己評価は、職員全員で話し合い一人ひとりが理解できるようにミーティングを重ねている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回定期的に開催している。主な出席者は、区長、役場担当者、老人クラブ代表者、利用者・家族の代表者となっている。ホーム内の状況や利用者の状況等の報告を行い、地域からの要望である災害時の避難場所としてホームの利用は可能となった。また、福祉トイレマップにも地元情報紙に載せる予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族との密接な連携にて家族は安心している状況である。今後も管理者、職員の更なる支援にて家族からの信頼を得られることを期待する。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の社協、老人会との情報交換は充分できており利用者、職員が様々な催しに足を運び馴染みの関係が構築されている。今後も地域に密着した活動と連携を期待したい。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	「自分らしく最後まで」「新しい家族」等利用者とホームの関わり方や利用者の尊厳をわかりやすく現した理念を掲げているが、地域とどのように関わっていくか現されていない。		利用者個々に対するホームの思いや生活を共にし様々な感情を共有する理念でわかりやすいが、ホームが地域の中でどのように関わっていくかや、利用者がこれからも地域中で暮らしていく姿を捉えた理念を作り、地域密着を考慮した理念となることが求められる。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を玄関に掲示し誰もが目にすることができるようになっている。管理者はミーティングの際個人の尊厳を重視したケアを職員に伝達し、職員もその思いを念頭にもち日々のケアを行っている。		
2.地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りやその他の祭りに利用者と共に参加している。老人会にはボランティアとして活動を行っている。また、地元の小学校の運動会にも足を運んでいる。管理者、職員一同が地域の住民への挨拶等欠かす事なく交流している。このようなことから、地域住民から応援の声を頂いている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で検討し管理者がまとめるという形を取っている。理解しにくい項目や改善すべき点は会議を行い資料を作り研修の場を設け全員が理解できるようにしている。前回の改善箇所について早速に資料を作成し全員が周知、理解できるように研修を行っている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、役場担当者、老人会、区長、利用者、家族代表等の出席している。内容は活動報告、評価・要望・助言、今後の取り組みなどが議題であげられ、例えば会議で提案された緊急時の避難場所にして欲しいとの要望などは即検討し可能としている。		

グループホーム ウイズライフ新宮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス提供、事業所の運営等で不明な点はすぐに相談したり、町の担当者も事業所へ頻りに足を運び情報交換を行う等、地域との結びつきを深め、サービスの質の向上に努めている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を表示し、必要性のある家族へは入所契約時に説明し、その後も随時説明を行っている。職員十分に理解するために資料等で勉強しているが、全員が周知、理解できるように10月に事業所全体の研修会を開くことになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ふれあい通信を毎月発行し家族へ送付すると共に利用者の暮らしぶり、健康状態やホームの行事、職員の異動、ケアプランの評価などを記入し随時家族に送っている。また、電話による報告も必要時行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見等は管理者、職員が随時聴ける体制をとっているが、契約書に記載された苦情相談受付窓口があることを折り返す毎に家族に伝えている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職の際には早い段階から交代者と引継ぎを行っている。ふれあい通信に載せたり、家族へは書面にて通知している。利用者への対応は、ホーム内で全利用者へ通知し納得してもらっている。引継ぎに関しては、担当制にしているが全職員が全利用者を把握している為、交代時は特に支障も無く、利用者の混乱も見られない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用に当たっては地域の馴染みを考慮し地域の住民をできる限り採用している。採用後は会社全体の研修を行い、ホームでも職員個人の能力を伸ばせるようマンツーマン体制にて研修を行っている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>利用者は人生の先輩であり、個人の人格を尊重することを会議や申し送りの場で管理者から職員へ話し周知させている。特に言葉遣いや接する態度を重視し、職員個々へその都度注意を促している。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社全体でスキルアップ研修をマニュアルに沿って実施している。ホームでは、研修委員制度を設け職員の意見を反映させた研修を計画書を元に2ヶ月に1度行っている。内容は誤嚥対策、レクリエーション、救急対応等がある。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括支援センター、他のグループホーム、入所施設等の職員が事業所に集まり、困難事例検討会を開き意見交換を行っている。また、他のグループホームへも事業所の職員が出向き情報交換を行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用前に管理者、職員が利用者、家族の元へ訪問し面談を行った上で本人、家族がホームを見学し体験入居(5泊6日)を実施している。体験入居に当たっては家族や前入所(院)施設より充分は情報収集を行っている。現在は満床の為新入居者は無いが今後も利用者へ安心して利用してもらえるよう細部にわたりに対応していく。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の気持ちを理解し利用者への感謝の心を忘れることなく接している。利用者職員との心の交流はこの感謝の気持ちから現れており、双方が共に喜び合った「労わる姿が見られ「ありがとう」という言葉がよく聞かれる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向に沿い体調を見ながら個別に対応している。担当者は本人の状態等を家族と面談を行いそれを元に全職員でカンファレンスを実施、情報を共有することで利用者の暮らし方を把握している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族と面談を行い全職員でカンファレンスを開き利用者の意見、思いをケアプランに反映させている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成早見表を元に定期的に見直している。また、利用者の状態が変わった場合は家族と共に見直し随時ケアプランの変更を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	社協との繋がりが深く行事やその他いつでも利用者と職員と一緒に行動し利用者の要望に応じられるようにしている。また、かかりつけ医からの依頼により緊急のショートステイの受け入れも可能としている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望により眼科、皮膚科等個別に対応している。地元の方が住居している為かかりつけ医がほとんど同じであるため相談や情報交換等密に行っている。かかりつけ医の看護師も24時間体制での支援可能である。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取り介護に関する説明を必要な家族へは行い、同意書を交わしている。ターミナルケアに関する理解は全職員が周知しており本人、家族、事業所の方針に沿い介護を行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個人の人格を尊重し、職員は言動等配慮している。ホーム内には閲覧できるアルバムや写真が掲示されているが、本人家族より了解いただいている。個人記録は所定の場所に保管され持ち出し禁止となっているが、施錠できる書庫に保管されていない。		利用者のプライバシーに配慮した対応に心掛け和やかな暮らしづくりが窺い知れる。個人情報の取り扱いにも配慮が見られ写真等についても本人家族から了解を得ている。記録も外部に流出しないよう工夫され職員の周知徹底であるが、施錠のできる書庫に保管されると全てが徹底されると思われる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ本人の声を傾聴することで本人の意思を把握し利用者個々の希望に沿った外出や楽しみごとを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力やその日の体調により職員と共に買い物に行き献立を決め、下ごしらえ、味付け等も利用者が行うこともある。食事の準備、後片付けに於いてもできることは利用者が行っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に沿い入浴を実施しており全てにおいて設定や決まりごとは無い。入浴を拒否する利用者に関しては清拭や足浴を促し身体保清と安眠を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の能力や希望に沿い支援している。職員は利用者個々に希望を聞き取り即実行に移す。このことにより利用者の満足感が得られている。ふれあい通信の校正を利用者がしたり洗濯物を畳む役割、ホーム前の花壇の世話をする等力を発揮する場がある。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の担当制は個別ケアに重点を置いたものになっており利用者の希望に沿い外出することが多い。散歩は日課になっておりその他釣りに行ったり近所へ買い物に行く等日常的に行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	通りに面して玄関があり車の量も多いが、7:00~20:00は鍵を掛けないようにしている。外に出ようとする利用者もいる為、必ず目の届く場所に管理者、職員が居るようにし、利用者の安全面に目配りしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練には、夜間想定と消防署を交えたものとなっている。災害時には近隣の住民やホーム前にあるコンビニも協力できる関係にあり実際に「いつでも協力します」とい強い言葉を頂いており事業所全員安心している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取表に1日の摂取量を記入し個別に対応している。職員に栄養士がおり栄養バランスを考えた食事作りができるよう支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、エレベーター付近に観葉植物がさりげなく置かれ、寸時休めるソファが設置され、窓際には写真や季節の装飾が施されている。居室へ繋がる廊下にも写真が貼られ、居室入り口に暖簾がかけられ家庭的な雰囲気になるよう工夫している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用し馴染んだ筆筒や椅子、その他のものが其々の居室に配置され、置き場所も馴染みの位置にしている。また、本人の希望によりベッドではなく布団を使用し本人の居心地をよくするために配慮している。		